

連載



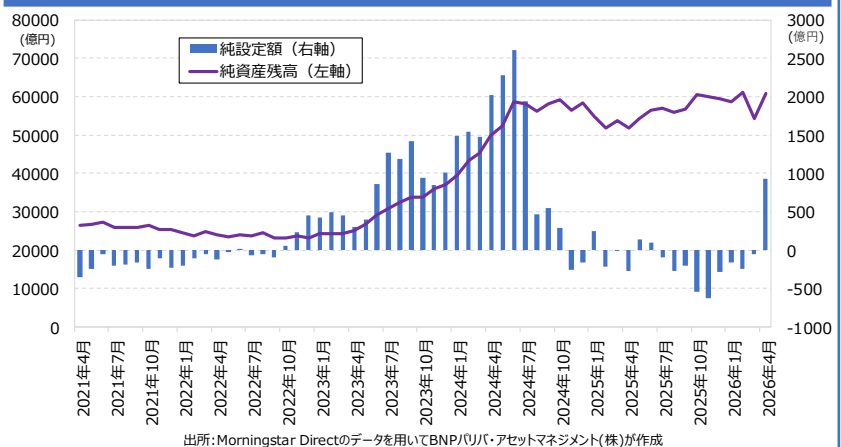
4月の投資信託市場(ETFを除く追加型株式投信)への資金流入額は月間で1.3兆円と、3月の2.4兆円から大きく減速しました。4月に資産クラス別で最も資金を集めた外国株式型は1.2兆円と3月とほぼ同水準の資金流入額を記録するなど、資金流入が集中する結果となりました。一方で、4月の日本株の急反発を受けて、国内株式型が3月の6,600億円流入から、4月は800億円の資金流出に転じたことが特徴的な動きとなりました。同じく、金価格の戻り基調からその他型も3月の2,100億円から4月は300億円に資金流入が減速しています。米国とイランの紛争を受けて3月に金融市場が急落したことで押し目買いが入り、4月の相場の急反発を受けて、投資家の利益確定売りの動きが強まったものと考えられます。ただし、外国株式型ファンドの資金流入の中身を見ると、4月は新興国株式ファンドが資金流入に転じるなど、米国株式からの分散の動きも見られます。今回の記事では、新興国株式ファンドの資金動向について詳しく見ていくことにしましょう。

新興国株式ファンドの残高はここ2年ほど5兆~6兆円程度を維持してきましたが、4月の残高は6.1兆円と2月に記録した最高水準に迫っています(図表1)。また、4月の資金フローは900億円程度の流入と10カ月ぶりにプラスに転じ、2024年7月以来の高水準となっています。4月に新規設定された新興国株式ファンドの大型設定による要因は大きいですが、足元の新興国株式のパフォーマンスを

見直す動きから、それ以外でも資金流入を記録する新興国株式ファンドが目立ってきているようです。新興国株式ファンドは、単一国に投資するもの、アジアや欧州といった地域の新興国に特化したもの、そして幅広く新興国株に投資するものなどがありますが、これまではインド株を中心に単一国に投資するファンドの人气が目立ちました。実際に、23~24年にかけて資金流入が加速した時期はインド株ファンドの人气が圧倒的でした。

しかし、昨年9月頃からは新興国のテクノロジー関連株を中心に先進国を上回るパフォーマンスを記録しており、年初来で見た両者のパフォーマンスの差はかなり大きくなっていることが確認できます(図表2)。公募株式投信(除くETF)の残高が200兆円に迫る中で、新興国株式への資産配分は依然として限定的なものにとどまっていますが、米国を中心とした先進国株式から投資家の関心に移りつつあるものと思われます。(執筆:BNPパリバ・アセットマネジメント 藤原延介)

図表1 新興国株式ファンドの純資産残高と純設定額の推移
(2021年4月~2026年4月)



図表2 新興国株と先進国株のパフォーマンス
(2025年4月30日~2026年4月30日)

